

第7回 雄物川大規模氾濫時の減災対策協議会（平成31年4月22日開催）

平成31年度取組計画、要配慮者利用施設避難確保計画作成状況及び洪水ハザードマップ周知状況、防災教育の取組状況、水防災意識社会再構築に向けた緊急行動計画の改定等に関する情報共有を図った。

- 規約改定として、成瀬ダム工事事務所長を委員に追加することについて了承を得た。
- 協議会委員19名の参加のもと、各機関における平成31年度取組、要配慮者利用施設避難確保計画作成状況及び洪水ハザードマップ周知等について情報共有を図り、今後も引き続き取組を推進することを確認した。
- 防災教育の取組状況について情報共有を図るとともに水防災意識社会再構築に向けた緊急行動計画の改定に伴う今後の進め方について確認した。

開催日：平成31年4月22日（月） 会場：大仙市神岡農村環境改善センター

委員構成： 秋田市長※	秋田県 総務部 危機管理監※	国土交通省 秋田河川国道事務所長
横手市長	建設部 部長※	玉川ダム管理所長
湯沢市長※	秋田地域振興局長	湯沢河川国道事務所長
大仙市長	仙北地域振興局長	成瀬ダム工事事務所長
仙北市長	平鹿地域振興局長	
美郷町長※	雄勝地域振興局長※	
羽後町長	気象庁 秋田地方気象台長	
東成瀬村長※		

※代理出席



協議会の開催状況

主な発言内容（発言順）

- 横手市長**
 - ・各地域の様々な取組を協議会等で情報共有し、他の地域の取組を参考にしながら相互の地域防災力が高まると考えている。
 - ・大規模災害時に自分の地域が無傷の場合は周辺の自治体を助ける立場になるため、お互いに減災に取組み、助け合う余力を残せるよう努めていきたい。
 - ・ハード面は予算が付き次第の整備となるが、ソフト面、特に人の防災機運を高めることは予算がなくてもできるので、時間をかけてそれぞれ刺激し合いながら機運を高めていく知恵と行動をとっていきたい。
- 大仙市長**
 - ・激特事業については県管理河川も含めて工事が進んでおり、感謝している。市の災害復旧事業は今年度で目途がつく予定。
 - ・堤防完成後には内水排除が大きな課題となってくるため、内水対策のポンプ整備等、ハード面の強化を進めている。
 - ・自主防災組織単位での「地区防災マップ」「マイ・タイムライン」の作成を支援し、住民一人一人が適切な避難行動をとるためのソフト対策に取り組んでいる。
 - ・住民の防災意識の高揚に尽力し、ハード・ソフト対策を併せて取り組んでいきたい。
- 仙北市長**
 - ・情報共有は大事であることから、防災担当と共有しながら進めていく。
 - ・仙北市は上流域であり、上流域の山地でどれだけの雨量でどれだけの時間差で河川の水位が上がるか、また、上流域の計測機能が高めることが下流域の水位の上昇に対して精度を高めることができるのかなと思う。
 - ・雨が降ったその時にしかできない対応があるので水位計の推定値の精度を上げるのは大事なことなのかなと思う。
- 羽後町長**
 - ・羽後町は雄物川上流域で流れが比較的に速い地域であり、ハード対策では固定堰の解消、築堤の未改築の対応をお願いしている。
 - ・ソフトの部分では、自分のことのように避難を考えるとということがなかなか出来ず、いかに情報伝達してそれを行動に移してもらうのが一番大きな課題と感じており、防災避難訓練を重ねることで自分のこととして認識させていく積み重ねが大事である。
 - ・避難訓練の際に、小学生から大人まで参加したHUG(ハグ)という避難所運営ゲームを通じて実際に避難所を運営する時の体験ができたことから、今回の防災教育でも小さい時からゲーム感覚で訓練していけば、大人になった時にも避難や災害を身近に感じられると思われるので、そのようなものを開発していただければ効果的と考えられる。



委員からの発言（左：横手市長 右：大仙市長）



委員からの発言（左：仙北市長 右：羽後町長）